

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/09/27号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

FOMCで金利上昇、ゴールドは頭を抑えられる

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



中国のEvergrande問題に揺れる株式市場を受け、ゴールドは週前半は小じっかりでしたが、日本時間23日木曜日早朝、注目の9月のFOMC終了後の朝3時に政策金利の据え置きが発表され、発表直前の1775ドルから1785ドルへ10ドル上昇しました。しかし30分後のパウエルFRB議長の会見が始まると、1785ドルから1760ドル割れまで急落、一時1740ドルまで下落、一週間の終わりは結局ほとんど週初と変わらないレベル1750ドルとなりました。パウエル議長はテーパリングは「まもなく始まる」とし、11月のFOMCで具体的な時期が示されるとし、早ければ12月にもテーパリングが開始され、2022年中にも利上げがありうるとの見方が広がり、それがゴールド、米長期国債売りにつながり、金利の上昇とゴールドの下落につながりました。し、それもまた金利上げにつながる一つの要因として判断されています。直接的には1.3%から1.46%まで大きく上昇した長期金利がゴールドにとってはもっと強い下げ材料となりました。本来インフレはゴールドにとっては強材料ですが、現在はどちらかということインフレ=金利上昇=ゴールド下落圧力となっています。

今週は米国の債務上限の問題が注目を浴びそうです。これが連邦政府の閉鎖など深刻な展開をみせるようであれば、ゴールドにとっては強材料となり得ますが、それが回避され、株価が再び歴史的な高値を更新するような動きになれば、ゴールドは再び大きく売られ1700ドルのトライもあり得るでしょう。しかし金融要因による下落場面ではこれまで買ってきたインド、中国といった実需筋、そして中央銀行、個人投資家がどのように行動するかが重要になって来るでしょう。個人的にはふたたび下値を支えられると考えます。そして実際にテーパリングが始まると逆に買い戻しによるリバウンドがあるのではないのでしょうか。

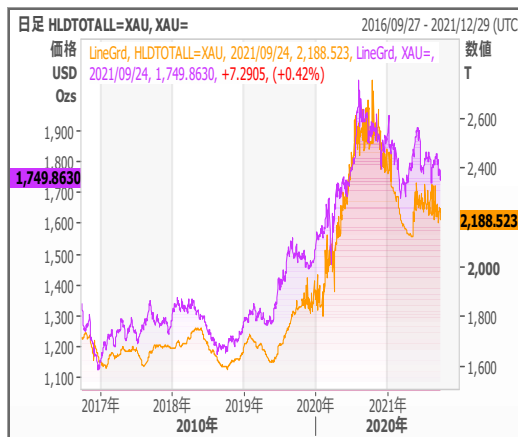
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【マーケット・トピック】

ゴールドの歴史 (2)

ゴールドが本格的に世界の経済に登場するのは、ゴールドラッシュによりゴールドの流通量が急増し、産業革命によって世界経済発展の先頭にいた英国が1816年に金本位制を採用したのを皮切りにフランス、米国がそれに追従したことがその始まりになると言っていでしょう。金本位制は国（中央銀行）が発行した通貨と同額のゴールドを常時保管し、ゴールドと通貨の兌換を保証する制度のことです。つまり本来ならばただの紙切れに過ぎない紙幣をゴールドへの交換を保証することによって言わば有価証券として流通させる制度です。日本もイギリスに遅れること55年、1871年に金本位制を採用し、金、銀、銅貨を発行しています。しかし金本位制には致命的な欠点がありました。保有しているゴールド以上の通貨は発行できないということです。1929年の世界大不況に対して、金本位制の下では有効な金融政策を講じ、景気調整を行うことが困難であるとして、各国は金本位制から離脱しました。

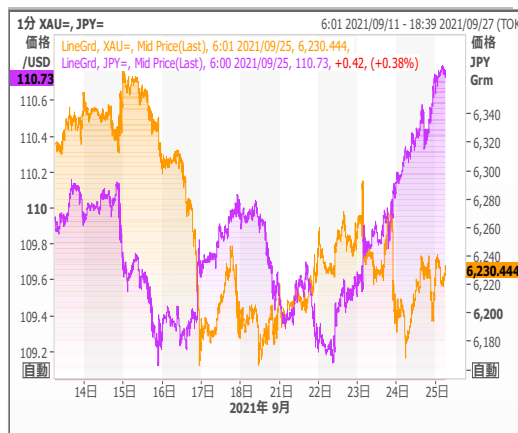
第二次世界大戦終結直前の1944年、世界は新たな国際経済の枠組みを米国のブレトンウッズで決定しました。「ブレトンウッズ体制」はゴールド1トロイオンス（約31グラム）を35ドルと決め、各国通貨と米ドルとの交換レートつまり為替も固定レートを決めた「ゴールド・ドル本位制」でした。日本円は360円で固定されました。このブレトンウッズ体制での固定レートは時折そのレート調整を行いながら、基本的には国際経済の仕組みとしてしばらくはうまく作用していました。1971年8月までは。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することによるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

